

宮城県を元気にする高知応援隊 活動報告書

1. 活動年月日 平成23年6月17日～19日迄	
2. 氏名・所属 磯木保廣 南国運送(有)	3. チーム名 気仙沼Bチーム
4. 活動内容について 私は今回の活動に関し現地入りチーム長をお任せ頂きました。 参加された皆様の志の高さ、被災地を想う優しい心に裏打ちされた団結心により今活動が当初の目的を達成し、全員が無事に活動を終えられた事に心より感謝申し上げます。 私自身は気仙沼での活動でしたが、炊き出し、体操教室、レクア、よさこい体験と貴重な経験をさせて頂きました。現地では被災者の方とも多数お話しさせて頂き、皆さん悲しみも心に置きながら気丈に前を向かっている印象で力強く感じられました。また、直接的な支援に加え、レクアやよさこいが大変喜ばれた様に心のケアが大切になってきているとも感じました。これからの支援要請も多種多様になって細かい部分のオーダーが出てくるとも感じています。 避難所での最後の挨拶の後、小学生の男の子がお礼に来てくれました。 「おじさん、オモチャをくれてありがとう。大切にします」そう照れくさそうにいう男の子の顔はとても嬉しそうでした。「僕、強く生きなきゃいけないぞ」私はそう言うのが精一杯でした。 今回の活動を通じて、津波の悲惨さや何気ない日常の幸せの大切さを学んだ気がします。全ての日常を失った被災者の方々に微力ながら支援を続けていかなければと強く感じた3日間となりました。	
5. ご自身の目的、目標達成状況についてご記入ください 気仙沼で同業者社長とお話しする機会をもらい当時の状況や事業再開の動きまた経営者として災害への対策・心構え等貴重な生の声を聞くことができ、非常に勉強になりました。業界のBCP普及促進に努めていきたいと思えます。	
6. 活動中の難しかった点、苦労した点についてご記入ください。 気仙沼では、滞在4時間と非常に短い時間でしたので、気仙沼の被災状況をじっくりと見て回ることでできなかった事が心残りです。	

宮城県を元気にする高知応援隊 活動報告書

7. 活動年月日 平成23年6月1日～ 30日迄	
8. 氏名・所属 (株)フタガミ 竹村明	9. チーム名 気仙沼市チーム
10. 活動内容について ① 6/1 高野事務所 実行委員会 ② 6/9 オリエンツホテル 団結式 ③ 6/15 相互運送 備品納品 ④ 6/16 相互運送 食材備品の積込み ⑤ 6/17 被災地視察 仙台市、多賀城市、七ヶ浜町、塩釜市、東松島市 ⑥ 6/18 気仙沼高校 会場設営、あかうしかレー、野菜スープ、鶏ナスからあげ炊き出し ⑦ 6/19 多賀城市ボランティアセンター マンションのがれき撤去 ⑧ 6/20 相互運送 ゴミ処理、鍋調理用品洗い ⑨ 6/30 土佐御苑 活動報告会	
11. ご自身の目的、目標達成状況についてご記入ください 防災会、民生児童委員、社会福祉協議会の活動関係について情報収集した。各班の責任者にトランシーバーを配備し携帯不通でも訓練通り避難し犠牲者を最小限度にした。保育中子どもの犠牲者ゼロは保育士たちが日頃から避難方法やルートを検討し訓練を重ねてきたことなどが判った。	
12. 活動中の難しかった点、苦勞した点についてご記入ください。 30代40代の若い世代が中心になり企画立案活動したことが高知県防災意識向上、対策に繋がると思います。炊き出しで食材が若干残ったのが残念で勿体無いと思いました。 。	

宮城県を元気にする高知応援隊 活動報告書

13. 活動年月日 平成23年6月17日～19日迄	
14. 氏名・所属 木下 文明 (株)轟組	15. チーム名 南三陸町
16. 活動内容について（レイアウト・文字数に制限はありません） ・炊き出し 皆がそれぞれの役割の中で考え、話し合いながら積極的に行動できた。 そのチームワークと臨機応変な行動力が、喜んでもらえ、いい結果をもたらしたと思う。 避難されている皆さんだけでなく、ボランティアの人達にも食べてもらったのも良かった。 器材、材料ともに十分な準備がされていたが、手袋(薄手ゴム)が不足していた。 ・体育教室、よさこい 体育教室の始めから、こちらからの誘いの呼びかけにも反応が鈍く、輪に入ってこれない人もいたが、ほとんどの人が参加してくれ、高揚した盛り上がりの状態でよさこいを踊れた。避難されている皆さんとふれあえ、話ができ、楽しめた、良い時間だったと思う。	
17. ご自身の目的、目標達成状況についてご記入ください 娘のバレーボールの最後の四国大会と日程が重なり困惑したが、宮城を応援する方を選んだ。試合のほうは私が応援に行かなかったため惜敗したが、宮城行きを黙諾してくれた娘が6年間の最後を満喫した様子で帰ってきたことも、心置きなく今回の高知応援隊を私の中で大いに意義あるものにしてくれたと思う。	
18. 活動中の難しかった点、苦労した点についてご記入ください。 震災後の慢性的な渋滞により移動時間で押してしまい、全般的に時間不足だった。	

宮城県を元気にする高知応援隊 活動報告書

19. 活動年月日 平成23年6月17日～20日迄	
20. 氏名・所属 鈴木秀司 スポーツマックス	21. チーム名 スポーツ班
22. 活動内容について（レイアウト・文字数に制限はありません） ①スポーツ教室について 初めに南三陸町の避難所へあいさつに伺いました。どう言葉をかけてよいのか？どのような対応をしてよいのか？不安な面はありました。しかし、代表者の方から紹介頂き、話をしていくと、“よさこい”を楽しみにしている、など、とても明るく話をしてくれ、なんだか“ほっ”としました。 1箇所目は気仙沼市。避難所にいた方は、20名弱でした。「体操教室やりませんか？」の問いかけに、少し警戒というか、一歩引かれた感じは否めませんでした。しかし、参加された方が、簡単な脳を活性化させる運動をおこない笑い声が増えてくると、自然とひとが集まり、人数も増えてきました。狭い空間での生活を余儀なくされているせいか、やはり腰痛、肩こり、疲れなどの症状があるとのことでした。簡単にできるストレッチやテニスボールを使っての腰痛、肩こり解消運動をおこないました。マッサージ師の方もたまに来る？ようですが、やはり自分の体は自分でケアすることが大切なので、この辺りを重点的におこないました。 南三陸町では、子どもたちも含め、脳を活性化させる体操や、テニスボールを使った簡単な運動などをおこないました。こちら笑顔が増えてくると、参加される方も笑顔になり、リフレッシュができたのではと思います。 その中でのおひと家族。お父さんは、言葉が少し不自由な感じでした。運動教室が終わり、そのお父さんが男の子に（多分）お礼を言いなさい、と言っていたようで、男の子が照れた顔で「ありがとう！」と言ってくれました。小さい声でしたが、私の人生の中で、このときの「ありがとう」ほど、心に響く、そして力強い「ありがとう」という言葉はありませんでした。「ありがとう」の強さ、大切さを知った瞬間でした。 3日目は牛網町、4日目は多賀城市でおこないました。いずれも40代から高齢者が中心でした。やはりみなさん、どこかしら体が痛い、疲れやすい、などの症状をもっているようでした。今回伝えたことを、今いらっしゃらない方に教えてあげてください、それにより、自分自身にも効果がより大きくなりますし、コミュニケーションにもつながります、と伝えてきました。	

23. ご自身の目的、目標達成状況についてご記入ください

今回の目的は、「スポーツで宮城のひとを笑顔にする」ということでした。そのような意味では達成できました。これは応援隊の方々が多くの方に声をかけてくれたり、一緒に動いて盛り上げて頂いたおかげで、本当に感謝しております。そして、「ありがとう」の言葉の大切さをあらためて知ることができたり、関わった方全てにありがとう！と言いたいです。思っていた以上に、みなさん明るかったことで、“ほっ”とした反面、まだまだしんどい思いをされている方もいることだと感じ、複雑な思いにもなりました。

このような機会をいただけたことに、感謝しております。

24. 活動中の難しかった点、苦勞した点についてご記入ください。

スポーツ教室をおこなう許可？など、正しい情報が伝えられず不安に思うことはありました。それと、避難所での空間で、はたして大声を出しておこなっていいのか？などの不安もありましたが、それは笑顔と引き換え！？に解消されました。

日中だったこともあり、子どもたちの参加が少なかったのも、また機会がありましたら、子どもたちを集めて（小学校、中学校など）また違った形でのスポーツ教室に挑戦したいと思いました。今後は、心のケアが大切だと思いますので、そのような意味でもスポーツで子どもたち、おとなの方のストレス解消など、元気にできたらと思っています。

宮城県を元気にする高知応援隊 活動報告書

25. 活動年月日 平成23年6月17日～ 19日迄	
26. 氏名・所属 (有)創友 宮崎 洋一	27. チーム名 南三陸町チーム
28. 活動内容について 17～18日の炊き出しまでは、みなさんとご一緒にさせて頂いた。19日は、多賀城市のボランティアセンターに伺い、午前中はお手伝いをさせて頂いた。 初日に視察した仙台港、七ヶ浜の被災状況は、高知県内の海岸沿いと変わらない地形状況で津波により、家屋がまったくない状況、松等もなぎ倒された悲惨な光景を目にしました。高知でも津波で同じ状況が想定されると思うと何も言葉に出来るようなものではなかった。 18日は、南三陸町の志津川高校で炊き出しをさせて頂いた。行く途中に寄った道の駅の自動販売機の前で、地域の方にどこからのボランティア団体ですかと尋ねられ、高知だと答えると、深く頭を下げて「ありがとうございます」と言葉をかけられたことは、何とも言えない気持ちになった。 学校下の標高が低いところは、まさに壊滅状態、現在はがれきの撤去も進んでいるが、3月11日の次の日の現場を創造するが頭には思い浮かんでこなかった。 炊き出し行く途中のバスの中でも避難所の、どこの場所の食事をもっていか、電話でのやり取りで、変化していくような状況であった。抱き出しの場所には水道はなく、自衛隊が運んで設置している水を利用している状況であった。 炊き出しで人気があったのは、トマト、唐揚げであったように思われる。トマトは甘いと特に喜ばれたように感じた。やっぱり、野菜は不足していると思い。 救援物資も沢山送られてきているが、ジュース類はたくさんあるようである（自由に飲んで良いみたい）。 その後は、スポーツマックスさんの体操教室、よさこい踊りを避難所でさせて頂いたが、年配の方の笑顔がいっぱい頂けたことは、本当にきてよかったと思った。 やっぱり、一人でなく、行ったみんなと一緒に踊ったことは大きかったと思う。 片付けが終わる頃には、はや、夕食の炊き出し組が県外から来られて作業をしていた。今後は、継続的な炊き出しは必要であると言われていた。 志津川高校から帰りがけに、避難所の方がバスの見送りに着ていただいた、その1人と今回参加した女性の方が、ありがとうと言われて、「ハグハグ」している光景をみた。本当に嬉しかった。 最後の日は、多賀城市のボランティアに参加させて頂いた。毎日150人前後の方が参加されているようである。長靴、軍手、その他の道具も貸しだしてくれる準備もあった。	

受け受けをされた人から順番に並んで、必要な人数が順番に現地に車で運んで行ってくれて作業を実施する。時間は 10:00~15:00 までであった。

私は、津波で浸かった公民館内の体育館の床掃除班の担当になった。半日で作業を終えた。午後は、その日の仕事がなく終りになった。

多賀城のボランティアセンターの担当の方の話では、月末まで受付をして、7月末には締めるようになるのではないかと言っていた。多賀城市の復興は確実に進展していることを感じた

29. ご自身の目的、目標達成状況についてご記入ください

少しでも、何か協力できることがあったら何かしてみたい気持ちであった。

新聞・テレビの報道でしか見ていない被災地を自分の目で確認して、今後の南海地震のために活かしたいと思った。

また、知り合いの建設会社の方がいたので、その人たちに直接、震災直後から現在までの震災の復旧工事、生活をどのようにしたか聞いてみたいこともあった。

30. 活動中の難しかった点、苦勞した点についてご記入ください。

準備をお手伝いすることもなく、ただ、予定に沿って参加させて頂いたことから、私自信に関しても何の苦勞もなく日程を終える事ができた。最初の企画から準備に携わった方への感謝の気持ちでいっぱいです。

宮城県を元気にする高知応援隊 活動報告書

31. 活動年月日 平成23年6月17日～20日迄	
32. 氏名・所属 斉藤 綾 フォトスタジオさいとう	33. チーム名 南三陸町チーム
34. 活動内容について <p>6月17日高知空港から仙台へ到着するも仙台駅では普段と変わらない光景。しかし、仙台駅から被災地へ行く途中の視察の中で想像絶する光景が目の前に広がった。テレビ、ニュースで見ていた光景よりも現実はいよいよ状況だった。</p> <p>家が広範囲にわたりあちらこちらに流され、海岸沿いには大型トラックの荷台部分そのまま放置されていた。改めて津波（自然の力）の恐ろしさを目の当たりにした。</p> <p>その晩、大幅なスケジュール変更の為深夜までに及ぶミーティングと炊飯テスト明日の準備が続き、睡眠不足まま明るく日を迎えた。</p> <p>6月18日炊き出し当日は先発隊にて南三陸町津田川高校へ移動。到着後、間近で仮設住宅、避難所での共同生活の状況をみて給水の為に列を作る姿や、プライバシーの無い環境などを目の当たりにし私たちの当たり前に思う生活とのギャップを感じた。また、避難所の責任者からの言葉で、「仮設住宅入居者への配給はしないで下さい」と言われたときルールとは言え複雑な思いでした。</p> <p>炊き出しの準備を進める中、各自が何をすべきかを考え判断しそれぞれの役割を果たす姿を見て改めて団結力の絆を感じた。私はカレーライスを担当しまして炊き出しがはじまり配給が始まると同時に、被災者の方へかける言葉を考えていたが、一緒にカレーを担当してくれた方の大きなかけ声に元気をもらい、どんな奇麗な慰めの言葉より元気な声で接する事が一番だとおもった。</p> <p>炊き出しの合間に地元の子供達と遊ぶ時間を持つ事ができボール一つで楽しそうに遊んでいる姿をみてゲームや携帯で遊ぶ事が主流なこの時代にどこかほっとした気持ちになった。</p> <p>今回被災地での活動終えて一番感じる事は、沢山の尊い命が失われた現場に行き幸い助かった人々と接する中で生きる事の大事さ、しんどさ、当たり前にも思ってた生活が当たり前ではなくなる状況を知る事ができて、身近な人への感謝する気持ちや思いやる事の大切さを学ばせてもらい自分の仕事、子育てなどへ生かしていけると確信した。いずれ来ると言われている南海大地震も人ごとではなくそれに対する備えにも目を向ける様になった。</p> <p>今回は炊き出しという形での支援活動でしたが今後も様々な形で継続的な支援活動を行って行くつもりです。</p>	

35. ご自身の目的、目標達成状況についてご記入ください

最初は二泊三日という短期間のボランティアという形でしか想像してなかったのですが実際に行動してみて考えさせられる事が多く、今後の人生において大きな勉強ができたと実感しています。

36. 活動中の難しかった点、苦労した点についてご記入ください。

スケジュール変更により準備作業に時間がかかり、睡眠時間が少なかった事がしんどかったけれど現場の状況に対応する事の難しさを知りました。